

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	住之江区
学校名	住吉川小学校
学校長名	福崎 真広

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・住吉川小学校では、第6学年91名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

令和6年度における本校の平均正答率は、国語、算数の両教科で全国、大阪市の平均を下回る結果となった。全国平均で比較すると、国語は4.7ポイント、算数では3.4ポイント下回っている。昨年度は、全国平均より国語で3.8ポイント、算数で3.5ポイント上回っていたため、昨年度の対象児童と比べて学習の習熟度合に差が出ている。無回答率は、国語は全国平均と同率であったが、算数では、0.7ポイント下回った。

質問紙調査の結果では、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目において、肯定的に回答した児童の割合が95%以上だった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語] 「言葉の特徴や使い方に関する事項」が全国平均を0.7ポイント上回ったことを除いては、全国平均正答率を下回る結果になった。「読むこと」においては、物語文の内容を読み取れていないため誤答が多くなっている。また、物語を読んで心に残ったこところとその理由をまとめて書くことにおいては、無回答率が16.7%となっており課題が浮かび上がった。しかし、基礎的な漢字は全国平均正答率よりも8.6ポイント上回っている。校内漢字習熟テスト週間を設け、取り組んでいる成果と考える。今後も継続して、書かれている内容を正しく読み取ることができ、自分の考えを書くことができるよう授業を工夫し、指導にあたっていく。

[算数] 「変化と関係」の領域においては全国平均正答率とほぼ同率だったが、その他の領域においては下回る結果となった。「データの活用」の領域における、読み取ったことについて書くことを問われている問題では、無回答率が16.5%となっており、国語と同様に記述することが苦手な児童が多いことがわかった。基礎学力の定着を図る取り組みを継続するとともに、児童が考え、判断し、表現ができるよう授業改善に努めていく。

質問調査より

「毎日朝食を食べていますか」「同じくらいの時刻に起きていますか」の基本的な生活習慣が身についているかどうかの質問に対しては、全国平均よりも下回っている。「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」など、自分自身のことについての質問に対し肯定的に回答した割合は、それぞれ83.2%、84.4%と高くなっている。また、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目では肯定的に回答した児童が95%以上となっている。

生活習慣の改善については、今後も家庭へ啓発し、協力を求めていく。また、児童が自分も周りの人も大切にできるように引き続き指導・支援を行っていく。

今後の取組(アクションプラン)

- ・毎学期末に校内漢字習熟テストを行い、学習した漢字の定着を図る。
- ・毎週1回、朝の計算タイムを設定し、算数の基礎学力と集中力の向上を図る。
- ・「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて、週に1回指導内容や方法についての検討会を教員間で設け、児童一人一人が学習課題を解決できるように努める。
- ・授業研究を行い、教員の指導力向上・授業改善に取り組み、児童にとって「わかる」「できる」授業を構築する。
- ・基本的な生活習慣や家庭学習については、保護者と連携し、時間の使い方の改善や家庭学習の習慣化を指導していく。